

**製品名: ALDH1A2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06759**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	52kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ALDH1A2
別名	ALDH1A2; RALDH2; Retinal dehydrogenase 2; RALDH 2; RalDH2; Aldehyde dehydrogenase family 1 member A2; Retinaldehyde-specific dehydrogenase type 2; RALDH(II)
遺伝子 ID	8854.0
SwissProt ID	O94788
免疫原	抗血清はヒト ALDH1A2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 412-461

**背景**

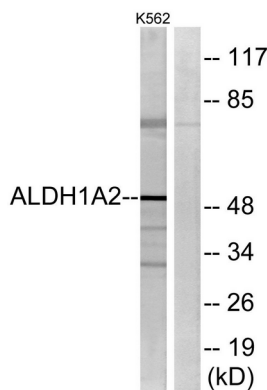
このタンパク質は、アルデヒド脱水素酵素ファミリーに属する。この遺伝子産物は、レチナールからレチノイン酸（RA）の合成を触

媒する酵素である。ビタミン A (レチノール) の活性誘導体であるレチノイン酸は、発達期および成体組織で機能するホルモンシグナル伝達分子である。類似のマウス遺伝子の研究は、この酵素とシトクロム CYP26A1 が同時に、後部臓器の発達を促進し、二分脊椎を予防する局所的な胎児レチノイン酸レベルを確立することを示唆している。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 4 つの転写産物バリエーションが同定されている。[RefSeq 提供、2011 年 5 月]、触媒活性: レチナール + NAD(+) + H(2)O = レチノ酸 + NADH。、機能: 遊離レチナールおよび細胞内レチノール結合タンパク質結合レチナールを基質として認識する。オクタナールとデカナールを代謝しますが、シトラール、ベンズアルデヒド、アセトアルデヒド、プロパナールは効率的に代謝しません。、経路: 補因子代謝; レチノール代謝。、類似性: アルデヒド脱水素酵素ファミリーに属します。、サブユニット: ホモテトラマー。、

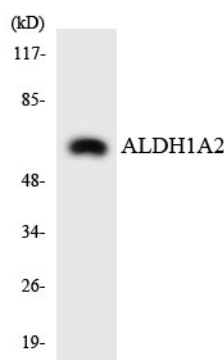
## 研究分野

レチノール代謝;

## 画像データ



ALDH1A2 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ALDH1A2 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。